

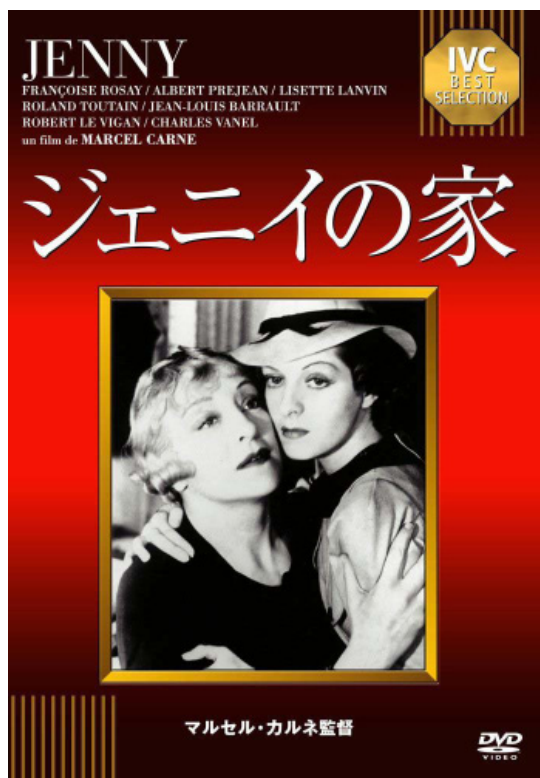
2017.1.19

vol.54

シネマ・ド・リぶらの コラム・ド・シネマ

映画
を
読む

本日の上映作品 『ジェニイの家』



1月19日 (木)

① 10:30 ~ 12:15

② 14:00 ~ 15:45

街のボスの世話で「ジェニイの家」という高級売春クラブを経営し、若い男を愛人している中年女性ジェニイ。娘にだけは「汚い生活」を知られまいとするが、母の愛人とは知らずに若い男と恋仲になった娘を見て……。

フランス映画の金字塔として知られる名作『天井桟敷の人々』(1944)の名匠、マルセル・カルネ監督のデビュー作。

監督：マルセル・カルネ

音楽：ジョセフ・コズマ

出演：フランソワーズ・ロゼー、シャルル・ヴァネル

製作：1936年 フランス

上映時間：105分

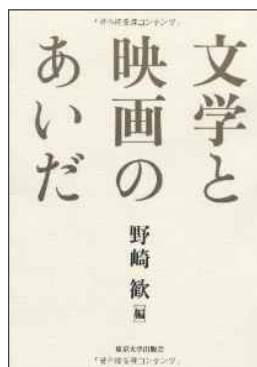
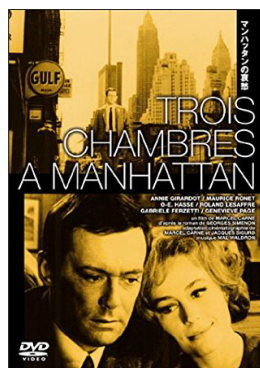
次年度の上映についてのご案内 (上映日および上映作品は変更になる場合があります)

第56回	4月20日 (木)	『バグダッド・カフェ』(再上映)	① 10:30 ~ ② 14:00 ~
第57回	5月25日 (木)	『類猿人ターザン』	① 10:30 ~ ② 14:00 ~
第58回	6月22日 (木)	『たそがれの維納』	① 10:30 ~ ② 14:00 ~ ③ 18:30 ~
第59回	8月24日 (木)	『あん』(レンタル：字幕付き邦画)	① 10:30 ~ ② 14:00 ~ ③ 18:30 ~
第60回	9月21日 (木)	『自転車泥棒』	① 10:30 ~ ② 14:00 ~
第61回	10月19日 (木)	『荒野の決闘』(レンタル)	① 10:30 ~ ② 14:00 ~
第62回	12月21日 (木)	『みじかくも美しく燃え』	① 10:30 ~ ② 14:00 ~
第63回	1月18日 (木)	『バルカン超特急』(再上映)	① 10:30 ~ ② 14:00 ~
第64回	2月15日 (木)	『黒いオルフェ』	① 10:30 ~ ② 14:00 ~

平日の昼間には参加できない方たちのために、来期は現行の「午前の部」「午後の部」に加えて、「夜間の部」を予定しました。6月と8月の上映の結果を踏まえ、その後の検討に入ります。

映画を読む 『ジェニイの家』

『北ホテル』	マルセル・カルネ／監督	アイ・ヴィー・シー	778.235
『マンハッタンの哀愁』	マルセル・カルネ／監督	アイ・ヴィー・シー	778.235
『銀幕の村』フランス映画の山里巡り	西出 真一郎／著	作品社	293.5
『字幕の名工』秘田余四郎とフランス映画	高三 啓輔／著	白水社	778.09
『一秒四文字の決断』セリフから覗くフランス映画	山崎 剛太郎／著	春秋社	778.235
『フランス映画史の誘惑』	中条 省平／著	集英社	778.235
『「大いなる幻影」考』1930年代フランス映画私記	吉村 英夫／著	学陽書房	778.235
『映画 100年 STORY まるかじり フランス篇』 フランス映画快作 220 本	朝日新聞社	778.2	778.04
『わがフランス映画誌』	山田 宏一／著	平凡社	778.235
『中条省平の秘かな愉しみ』	上野 千鶴子／著	第三書館	778.04
『文学と映画のあいだ』	野崎 歓／編	東京大学出版会	778.04
『タッチで味わう映画の見方』	石原 陽一郎／著	フィルムアート社	778.04



親の心子知らず、子の心親知らず K.M.

今回上映の『ジェニイの家』(1936)は、フランス映画の金字塔として知られる超大作『天井桟敷の人々』(1944)の名匠マルセル・カルネ監督の長編映画デビュー作です。80年も前の作品で、恐らく殆どの方はタイトルさえご存じなかった筈です。私もそうで、この作品が日本で公開された1938年のキネマ旬報洋画ベスト5を調べてみると、第1位『舞踏会の手帖』第2位『オーケストラの少女』第3位『ジェニイの家』第4位『モダン・タイムス』第5位『スタア誕生』と何れも知名度の高い名作に混じっての高順位だったので驚きました。

あまり予備知識もなく期待を込めてDVDを見始めたのですが、ごく素朴なオープニング・クレジット、良いとは言えぬ画質と音色に、アレレ！でも、戦前フランスの大女優フランソワーズ・ロゼーが登場するあたりから、80年前製作のハンデは気にならなくなり、この作品以降、カルネと次々とコンビ作を発表していくことになるジャック・プレベールの巧みな脚本と小気味よい台詞の連続に乗せられ、人生の哀感を湛えるしみじみとしたラストシーンを迎えることができました。

出だしのハンデを少し軽くする意味で、若干のネタバレは許していただき、この作品の主要キャストを取り巻く背景について若干説明を加えておきます。

主人公のジェニイ(フランソワーズ・ロゼー)は中年のシングルマザーで、ロンドンに音楽留学させている娘ダニエル(リゼット・ランヴァン)の学費を稼ぐため、娘には内緒で街の顔役のブノワ(シャルル・ヴァネル)の助けを借り、パリで評判のナイトクラブ「ジェニイの家」を開いています。

彼女には元レーサーのリュシアン(アルベール・プレジャン)という年下の愛人がいますが、ジェニイを秘かに愛しているブノワは、手下の「ラクダ」と呼ばれる不気味なヤクザ(ジャン・ルイ・バロー)を使って二人の

仲を裂こうとしています。リュシアンも次第にヒモのような生活に嫌気がさし、ジェニイとの間には口論が絶えなくなっていきます。老いの見え始めた顔に華美な粧いを凝らし、年下の恋人に対する心がかりと経済上の苦境に悩むジェニイ。

そんな時、ダニエルが突然帰国してきます。イギリスの金持ちの息子の恋人との結婚話が破談になった理由が、ジェニイの商売に関係しているらしいという疑惑の真偽を調べるためです。ある夜、ダニエルは単身「ジェニイの家」がどんなところかを調べに出掛け、酔っ払いにからまれていたところを、リュシアンに助けられ、二人はお互いに、相手とジェニイの関係を知らないまま、愛し合うようになり、そして、悲劇ではあるが不条理ではない人生の哀感を湛えるラストシーンに向かってストーリーが展開していきます。

具体的な見どころを挙げると

①したたかな貫禄のある姉御のような存在感の中に、中年女の哀しさを見事に表現したフランソワーズ・ロゼーの演技。(ちなみに、彼女の他の主演作品としては『外人部隊(1934)』『ミモザ館(1935)』『女だけの都(1935)』が有名です。)

②「ラクダ」と呼ばれるヤクザを演じたジャン＝ルイ・バローの特異な風貌と存在感。(ちなみに、彼は後にカルネの超大作『天井桟敷の人々(1944)』の主役バチストを演じています。)

③後に「詩的リアリズム」と名づけられるカルネ／プレヴェール・コンビ作品の特徴。(台詞と映像の相乗効果により、厳しく非情な状況の描写にも、繊細な詩情と味わいを与えようとする演出スタイルが特に顕著な、病院から陸橋へのラストチャプター。)私はこのチャプターを何度も繰り返して観て感嘆しましたが、皆さんも「りぶら」所蔵のDVDで深読みされたら如何ですか。

12/15 「素晴らしき哉、人生！」の感想

・誰にとっても、一度っきりの人生。なのに「もっと違う人生が、あったんじゃないか？」ナンテ思う64才の今。でも、今日のシネマのように、実際にはそんなことはおこりうるはずもない。だから今、この時をきちんと大切に生きなきゃと思った。本当にいいものを観せていただきました。すごい！クリスマスプレゼントでした。

・これまで「生まれてこなければよかった」との思いを何度もしました。でも、この映画の主人公の様に、よいこととしていたから、今まで生かされているのかも。

・とても感動しました。もし自分がいなかったら、生まれなかったら、と考えてみました。やはり生きなければいけない、自分だけの人生ではないとつくづく思いました。クリスマスにふさわしいとてもよい映画でした。

・最高によかったです。ムダな人生は一つもないのですね。
・うしろの方のクライマックスを2回見た。一人の存在で世界が変わるのだ。

・今後の人生の指針になります。ありがとうございました。岡崎の町を大切にします。

- ・「友ある者、敗残者ではない」、とてもいい言葉です。
- ・泣けて泣けて困りました。多くの友人はまさに[宝]。今のアメリカのトランプ選び、心配です。
- ・よき時代のアメリカ。トランプを選んだ国はどうなってゆくのか？
- ・ありがとうございました。心温まる映画を観て元気が出ました。
- ・楽しく心温まるムービー！流石アメリカ！
- ・心に残る、いい内容の映画でした。ありがとうございました。
- ・心が暖かくなりました！素敵な、クリスマスを迎えられます！
- ・子供の頃以来の嬉しいクリスマスでした。
- ・スバラシイ映画と素晴らしい人生に乾杯！
- ・とても素晴しかったです。最後はティッシュが必要でした。
- ・とても楽しかったです。毎月待っています。
- ・以前から見たい映画でした。ありがとうございました。

- ・いいcinemaを観せてくれました。ありがとうございました。
- ・スタッフの皆さん、いつもお世話をいただきありがとうございます。素晴らしい映画でした。また今日のような感動をお願いいたします。
- ・とても暖かい気持ちになりました。これからもどうぞよろしくお祈りします。
- ・今年もありがとうございました。来年もよろしく。よいお年を。
- ・久しぶりに感動させていただきました。
- ・ときには美空ひばりやチャンバラ（嵐寛寿郎の鞍馬天狗など）の映画を。

※無料で上映できる作品は限られています。

DVDのケースに貼られているシールをご存じですか？
上映可能な作品から、「シネマ・ド・リぶら」のスタッフが
上映作品を選んでいきます。

次回（第55回）上映会のご案内

會議は踊る

DER KONGRESS TANZT



2月16日（木）

① 10:30 ~ 11:55

② 14:00 ~ 15:25

ナポレオン失脚後の欧州の情勢に対処する1814年のウィーン会議が華やかな宴に明け暮れ、“會議は踊る、されど進まず”と呼ばれた事実から、ロシアのアレクサンダー一世が替え玉を使って、公式行事と手袋屋の娘とのお忍びの恋を巧みにこなすのを、軽妙にロマンチックに描く。

監督：エリック・チャレル

音楽：ウェルナー・リヒャルト・ハイマン
フランツ・グローテ

出演：ヴィリー・フリッチ、リリアン・ハーヴェイ

製作：1931年 ドイツ

上映時間：84分

『會議は踊る』テーマ展示

◆ 2月9日（木）～2月16日（木）

◆ 場所：ポピュラーライブラリー